

人を生かす信者(ルカ 6:39-45)

信者の私たちは王である祭司と言われる者として召されて、そのように造り変えられている者です。そして、神様と人とを和解させる和解の務めとして召されてる者だと聖書は迷うことなく信者の私たちのことを語っています。なのに、そのような信者の私たちが人との関係が上手いかず、人につまずき、また人との葛藤を覚えたり、どうしても人間関係がうまくできないということで王である祭司、和解の務め、つまり人を生かすことができるために召されていると言われていたのに、人を生かすこととは程遠い人生を歩いているのではないのでしょうか。そのところを今日の礼拝を通して答えをいただき、修正して、残りの生涯は人を生かす人生を歩いて行きましょう。

今日の聖書の箇所は、パリサイ人に向かって絶対人を生かすことなどできない姿、そのような状態を例え話などを通してイエス様が語っていらっしゃる内容です。特に盲人が盲人の手引きをする、それでちゃんとできるかよということをおっしゃいました。しかし、なぜ盲人なのに盲人の手引きをしようと思うのでしょうか。それは自分が盲人なのに盲人だということに気づいていないから、人をガイドして正しく手引きができる者だと自分なりに思い込んでいるから盲人のガイドしようとするのではないのでしょうか。本当に自分が目が見えない同じ盲人だということに気づいていればそんな勇氣は持てませんよね。だからイエス様がパリサイ人に向かって、盲人が盲人の手引きなどできるかよとおっしゃったのは、パリサイ人は、自分たちと違っていろいろな過ちがあり、さまざまな問題を抱え弱さを持っている人々を治すことができる、彼らをちゃんと叩いて質すことができると思って頑張っているから、それが本当に人を生かすことになるか。生かせない者なのに、生かそうとしていることがおかしくないのかというお話をしていらっしゃる場面なのです。それを通してクリスチャンの私たちが残りの生涯、お金儲けも大切でしょうけれども、家庭の平和も大切でしょうけれども、自分の目標を達成することも世界平和も大事なテーマでしょうけれども、クリスチャンの私たちはそういうことのために召されて生きる者ではありません。社会正義のために生きる者ではなくて、地獄に行くしかない悪魔の奴隷となっているたましいを生かすために召されている唯一無二の存在であることを改めて心に覚えましょう。だからこそ、私たちのいのちが価値ある者であり、皆様の勉強や経済、健康、家庭すべてが意味あるものになるということを忘れてはいけません。そこら中の人と同じ人生、一緒にしてはいけません。私たちはイエス・キリストが尊い血を流されて買い取られた尊い神の民であり、王である祭司、世の光として召されている者だということを心に覚えて契約として握りましょう。どのような過去があったとしても、今現在どんな状況であろうが、社会的な身分と階級がどうであろうが、私たちは王である祭司、世の光としてされている唯一無二の存在であるということをお忘れはいけません。だから、必ず皆さんを通して神様は人を生かす救いの働きをなさるはずなのです。もしそのことがなければ、この地球の歴史は終止符を打って終わりになるのではないのでしょうか。でもまだ地球が動いているということは、私たちを通して救われるべきたましいが残っているから地球は終わらないで動いていると、朝日が昇って夜、日が沈み、夜に星が現れるのは、この地球に皆さんの周りに救われるべきたましいが待ってるからというサインなのです。それが私たちのテーマなのです。歴史を見るテーマ、自分の人生を見るテーマなのです。それをテーマにして自分の過去、現在、未来を正しく整理することを編集と言います。そうでないと人生を正しく整理することは無理なのです。すべてが自分勝手な基準で、世の中の法則によって人生を解釈するので、クリスチャンとしての答えがなかなか見られないのではないのでしょうか。ぜひ私は人を生かす唯一無二のクリスチャンなんだ。そこら中の人と生きる理由、生きがいなどは違うんだということを毎日、告白しながら生きていきましょう。そのためにパリサイ人を教訓にしてイエス様が語ったこのメッセージを通して人を生かすためには何が必要なのかということを確認していきましょう。

1. 自分の目に梁があることを認める時、人を助けることができる。

まず第一に、パリサイ人と違って自分の目にははりがあることを認めるときに人を助けることができるようになります。

パリサイ人たちは、ユダヤ人たちは自分の目に梁があることに気づかないのです。よその人の目にあるちりばかりが見えるのですが、それが本当の意味でちりではなくて問題だらけに見えるわけです。なぜそれがそれほど引っかかる問題に見えるのでしょうか。自分の目に梁があることを知らないからです。だから裏返しますと、自分の目にちりとは比べものにならない梁があることを認めるときに、初めて人を助けることができるクリスチャンになります。

1) 見えること、現れた問題での評価と比較

今まで私たちは目に見えることばかりにこだわっていました。そして、表に現れている問題をもって人を評価したり、物事を判断したり、またお互いに比較し合ったりしていました。それしかありませんでした。それが当たり前だったのではないのでしょうか。姦淫の罪を犯している女の人を見ると、私が同じ行為をしていないので、それがちりに見えるわけです。それを直そうとどうにか正そうという方向に行くしかありません。

2) 人間的解決方法に

だから、目に見えること、表に現れている問題を問題だと思って評価をし考えて判断してしまうと、結局、それを解決しようとして人間的な解決の方法に走るようにならざるをえません。それがパリサイ人でした。そして、今まで私たちもそういう風に生きてきたのです。今現在もそうしているかもしれません。クリスチャンなのに。だから律法が取り上げられるのです。それが是々非々によってこれが悪いよ、こうしちゃいけないよと何かのルールやカットラインを設けて、それに引っかかった、どうだった、だからこうしなくちゃ、ああしなくちゃと悪気なのか良い思いなのかは別として、そのようになるしかありません。それで人を治すことができると思いますか。それで本当に人を生かすことができると思いますか。人間的な解決の方法に向かうしかありません。だから道徳取り上げて道徳的に倫理的にこうしなくちゃ、これがこうではないのかと訓戒の方に走るようになり、それがうまくいかない場合には宗教などを求めて、あるいは勧めるようになるしかありません。いま申し上げました律法や道徳、倫理、是々非々、宗教、訓戒等々は悪いものではありませんが、それがその人を本当に治せると思っていることが問題です。それが人を生かす方法だと思い込んでいることが問題です。世の中ではそうだとすると、クリスチャンの私たちが教会も同じ考え方を持っているから問題になるわけです。当時パリサイ人は、当時で言いますと教会なのです。でも福音を失っているものはや教会ではない教会なのですが、神様のみことばをいただいて、神様の奇跡の中を歩いてきたにもかかわらず、このような状態になっていることをイエス様は指していらっしゃるわけです。見えること、表に現れる問題をもって評価して判断して処理しようとするとうとうなってしまうのか。盲人が盲人の手引きをするようなことになってしまうのではないかということなのです。それでは人を生かすことなどは夢の夢なのです。なので、なぜそうするかというと、自分の目に梁があるということに気づかないのです。それを認めようとしていないのです。しかし、もしその人が相手の目の中にあるちりを見て、その前に自分の目の中に梁があることに気づいたとなれば話は変わります。

3) 自分の中の霊的根本(はり)を見るなら

①ヨハネ 8:44 ②エペソ 2:1-3 ③ヘブル 9:27 ④ルカ 16:19-31

その梁というものは、いま例え話の話であって、本当に自分の中に霊的な根本があり、それが何なのかを見ることができたのなら話は変わります。それが梁の意味です。ちりが表に現れてるいろいろな私たちが普段問題だと思っているその問題だとすれば、梁というものは誰も気づかない、しかしすべての人の根底の方にある、根っこの方にある霊的な問題、原罪というもののなのです。自分の中にその霊的根本があることを見ることができたならば話は変わるのではないのでしょうか。聖書は迷いなく私たちに語っています。宣言しています。神様を離れたすべての人は、あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であると。自分の中にこのような身分が、こういう根本があるということに気づいた人であれば話は変わります。自分がこのような盲人だったということに気づけば話は違うのではないのでしょうか。クリスチャンでも教会でも聖書を読みながらも、このことを認めようとししないのです。特に刑務所に行く人の話であって、自分の話ではないかのように思うのです。だから人を見る目も変わらないし、人を助けることができません。人との葛藤が終わらないのです。いつも競争ばかりするのです。あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であり。だから自分の罪過と罪との中にあって死んでいた者であって、仕方なく空中

の権威を持つ悪魔サタンに従うしかなかったし、生まれながら神の御怒りを受けるしかない子らとして生まれた者なのです。誰がでしょうか。私なのです。自分のことなのです。それに気づかないのでしょうか。たぶんここに座っていらっしゃる方々はそれに気づいてもらうための人生波乱万丈があったからこそここに来ていらっしゃるのではないのでしょうか。レムナントはまだそういう経験がないかもしれませんが、神様の恵みによってそれに気づかなければいけません。あの人は悪い人間で、私はそれに比べると少しマシなんだという考え方は、クリスチャンの考え方ではありません。ふさわしくありません。相手がどうのこの以前に、私は悪魔の子であり、生まれながら神の御怒りを受けるしかない地獄の子であり、だから人間には一度死ぬことと、死後にはさばきを受けることが定まっている、私は必ずこのままでは神の前でさばかれるしかないし、その後、結果は地獄に引き落とされるしかないそういう人間なのです。それが見えないのでしょうか。それを認めることができないのでしょうか。だから相手云々以前に、親がどうのこの以前に、社会が、学校が、教師がああだこうだ、周りの友達がああだこうだ、気に入るよ気に食わないよ、そういうこと以前に自分のことなのです。

4) Only キリスト、絶対キリストが必要な存在

私はキリストのほかに希望がない存在なんだ。Only キリストだけが私の救いであり、私の希望なんだ。私にはキリストがなければ絶対いけない。私には絶対キリストが必要なんだ。私はそういう存在なのです。それでこれだあれだ、悪い良いとかそういうことは全部切り捨てて、キリスト一本に絞ってキリストを信じて受け入れることだけにこだわることになります。私が自分のどうのこうを直そうということも全くしてないのに、キリストを受け入れた瞬間、死と罪の原理から永遠に解放され、「まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わされた方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきにあうことがなく、死からいのちに移っています」。キリスト・イエスを受け入れた瞬間、滅びるしかないこの私は十字架とともに死んで、私の中に救い主キリストが生きる新しく造り変えられた存在になるわけです。これが生かされることです。このように救われることをいのちが与えられるというわけです。それが教訓によって律法の教えによってこうしなさい、ああしなさい、こう頑張るから、修行するからそうなれるものなののでしょうか。まだ梁が何か分かっていないからです。悪い、正しい、正しくないというのを計算する余裕もありません。キリストしかいらっしゃいません。Only キリスト、絶対キリストなのです。それによって私が助かりました。その恵みによって私はいのちが与えられました。神の子どもに新しく造り変えられました。自分が努力したわけではなくて、誰かの教訓によって、学校の教育によってではなくて、キリストによって私は新しく造り変えられて生かされることになりました。この経験をしない限り、人を見る目も変わらないし、人を生かすということは不可能なのです。クリスチャンでも。だから人を生かすために一番大切なポイントは、自分の目に梁があることに気づき、自分が同じ盲人だということに気づいて、他のなにかではなくてキリストによって、カルバリ山の恵みによってのみ私は生かされた。そうではないのでしょうか。何が私を変えたのでしょうか。何によって私は助かったのでしょうか。優しい誰かによってでしょうか。ありがたいんでしょうけれども、その優しさが私を生かすことはできません。キリストの他にはありません。なのにクリスチャンが自分の目に梁があることをなかなか認めないのです。気づかないのです。2部礼拝で申し上げますが、それが単なる頭の問題、知識の問題ではなくて霊的な邪魔なのです。霊的な攻撃なのです。特に人間的にそれほど悪いことをせず、それほど大げさな問題などないまま順調に、順風満帆に育ってきたつもりの方はなかなか難しいです。パリサイ人みたいに。そういう意味では、現場で姦淫の罪を犯して、石を投げられ殺されそうになった経験の持ち主の方が有利かもしれません。救われることより大切なことがどこにあるのでしょうか。ほかの誰かのような悪ふざけがなかったから自分は違うと思うのは、クリスチャンとしてのスタートがまだ来ていないのです。だから盲人なのに盲人の手引きをしようとするわけです。自分が盲人だと気づかないので。あなたが悪いよ。こうしなさいよ。こうすれば良くなるよ。本当にそうなののでしょうか。こがクリスチャンの私たちが真剣に考えて通らないといけないそういう旅程の一つだと思います。

2. 他人の目にあるものがちりに見えて人を助けることができる。

そのように自分の目に梁があることを認めた時に、二番目です。他人の目にあるものがちりに見えるのです。

イエス様は最初からちりとおっしゃいましたが、自分の目に梁があると知らない人は、そのちりがはりのように見えるわけです。だから大げさになって、こうしなきゃ、ああしなくちゃ、何でなの...とかになるのです。でも、自分の目に梁があることを認めて、Only キリスト、絶対キリスト、私が助かったのは何かの教訓とかルールではなくて、キリストの贖いの血潮によるものだ。その他に希望はなかったんだということを経験した人の目には、他人のさまざまな問題がちりに見えて人を助けることができるようになります。そのちりに見えるというのはどういうことなのでしょう。

1) 人の問題を問題にしない(つまり、裁き、非難…)

人にあるさまざまな問題、私たちの基準から見た時には、大きい、小さい、大変、柔らかい、さまざまな評価があるでしょうけれども、表に現れている人の問題を問題にしないことです。ちりなのです。もちろん目にちりが入ると大変なんですよ、本当は。でも梁とちりとを比較してみたときに、問題を問題にしない、問題を問題した時には、問題につまずくか、それをさばいてしまうのか避難するか等々どちらかのほうに行くわけです。それでは人を生かすことができません。いかなる問題も問題に見ないのです。なぜなのでしょう。これはふさわしい例えにならないと思いますが、例えばものすごい大変な癌を患い、死の淵をさまよってそこから生き返った人が、誰かが風邪をひいたの見たときに大げさに見えるのでしょうか。風邪で大げさになる人は、死の淵をさまよった経験がないからでしょう。つまり、自分の目に梁があるということに気づいて、それを経験したことがないので何もかも問題に見えるわけです。でも死の目の前に行ってきた人は、ちょっとした何かを見た時に、それが大げさな問題に見えるのでしょうか。これは 100%適切な例えにはならないと思いますが、それがちりという意味なのです。

2) 根本問題に気づく材料

それから、なぜちりなのかというと、その問題がどういう問題であれ、自分が経験したので、その問題は本当は本当の問題、根本の問題、霊的な問題に気づいてもらうための材料だということがわかってるわけです。そういう目で見るとちりなのです。その人にあるそのちりをもって梁の方に持っていくときにちりから自由になります。それがその人の目からちりを取るという意味になるわけです。しかし、何かの問題を問題にすると、その瞬間から本物の問題、本当の問題は見ることができなくなります。わかりますか。いくら真面目に誠意をもって取り組んで、その問題をどうにかしようとして、例えその問題が改善されたとしても、神様とは全く噛み合わないのです。神様はその病気を治すことが目的ではありません。神の願いは唯一、人間が地獄の運命から悪魔の手から救われることなのです。そのためにさまざまな問題が許されて、その問題をそのちりをもって梁の方にもっていくわけです。あなたはこの問題でああだこうだと言われて、自分でも良心的にああだこうだといろいろ悩んでいたでしょうけれども、それどころではありませんよ。あなたの本当の問題は、神様を離れて悪魔サタン罪と地獄の奴隷になっていることなんだよ。

3) 真の必要、唯一の答えキリストへと導く

だからああだこうだと言われたことを気にしなくてもいいし、気にしてもしようがないし、あなたに必要なのは唯一キリストだけなんだよということをその人に伝えることができるわけです。しかし、その人の問題を問題にしてしまうと裏にある本当の問題は知らないということになるし、見ることができないし問題止まりなのです。もしかしてクリスチャンの私たちも、自分の問題も誰かの問題を見るときもそういう目で見ているのではないのでしょうか。そこを正さないといけません。修正していきましょう。問題を問題に見ないでください。なぜなら自分で本当の問題が何かに気づいて経験したのではないのでしょうか。いまだにそうでない方々は悔い改めてイエス・キリストを信じないといけません。軽くイエスを信じますよではなくて、イエス・キリストを信じないといけない絶対的な理由がわかって、天が崩れてきても私はイエス様から離れることはできません。そういう信仰でないといけません。教会で何か起きて、周りにどんな変なことがあっても、私がイエス・キリストから離れる理由にはなりません。絶対なのです。自分の中の梁を見たから。それを見た人なので相手が悩んでいるその悩みを見て笑うわけではありませんよ。心から微笑みながらそれは材料なのだよ。梁を見てももらうための材料なのだよ。今まであなたが一度も聞いたことがない、気づいたことがない、それを見てももらうための神様の配慮なのだよ。だから今までその問題を通して悪い良い、これだあれだ、こうしなくちゃああしなくちゃと思っていたそのすべてを捨てなさい

い。自分の問題、自分が生かされて自分が治るということは、修行や努力によって可能なのでしょうか。それは梁をまだ見たことがないからです。悪魔のしわざが何か分かっていないからです。地獄の運命がどれほど不可能な問題なのか気づいていないからです。キリストの他にはありません。キリストが、しかも十字架で代りに死ぬことの他には方法がありません。何といっしょに並べられるのでしょうか。それを経験した人は問題を問題にしません。私たちも昔の本能だったというものがあるので、律法的なものがついつい出ようとするけれども分かっているからブレーキをかけるわけです。問題ではありません。何が問題でしょうか。泥棒が問題、万引きが問題でしょうか。麻薬が問題でしょうか。精神的に薬を飲んでいることが、錯乱を起こすことが問題でしょうか。なぜそれが問題でしょうか。本当の問題を見ていないからです。本当の問題は霊的な問題であり、悪魔のしわざであり、私たちが悩んでどうにかなることでも、教訓するからどうにかなることでも、努力するから修行するから頑張るから教育を受けるから変わるようなそういうたやすい問題ではありません。だから、何で悩んで何を整理していらっしゃるのでしょうか。全部とっぱらわなければいけません。全部捨てないといけません。全部偽りの悪魔の偽りなのです。キリストを知らないように、とにかくキリストにたどり着けないように。だからせつかくクリスチャンになったにもかかわらず、人を生かすことができないし、生かすという方向に思いが行くこともできないのです。何がなんだか分かりません。だから、あの人にも形の問題がどうであれ、その人に本当に必要なのは唯一の答えであるキリスト、そちらの方にガイドして行くわけです。そちらの方に導くわけです。これこそが人を生かすことです。私が人を生かすわけではありません。キリストへと導くわけです。

4) 43-45、良い木、良い倉(キリストある人ない人)

そういう意味で 43 節から 45 節でこのようにおっしゃっています。「良い木が悪い実を結ぶことはなく、悪い木が良い実を結ぶこともありません」。どういう意味でしょうか。その後の 45 節、「良い人は、その心の良い倉から良い物を出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を出します。人の口は、心に満ちていることを話すからです」。これでまた心を正しく整えましょうという話をするのですが逆戻りなのです。何が良い倉なのでしょう。良い木はなんなのでしょう。基本的な根本的な話なのです。本当に梁に気づいて Only キリスト、絶対キリスト、そしてキリストがその人のうちにいらっしゃる者は良い木であり、良い倉なのです。その人の人柄や人格の話ではありません。良い人格が人を生かすことはできません。人柄が良いというのは社会生活に役立つかもしれませんが、人を生かすこととは関係ありません。人を生かすことはキリストだけなのです。キリストだけがいのちなのです。キリストを持っている者が良い木であり、キリストを持っている人が良い倉を持っているわけです。キリストが無いところから良い実はありません。キリストの実を結ぶことなのです。何にこだわっているのでしょうか。よく考えてみると、なぜクリスチャンなのに人を生かすことができていないのか。それに対してなんとなく答えが見えてくるのではないのでしょうか。ああ、そうだったのか。私は良い信者になろうとしたのですが、最初からどこかからずれているのだなと。律法を無視するとか、そういう意味ではありませんが、律法は人を生かすことはできません。教育も必要な物ですが人を生かすことはできません。人を生かすことは唯一キリストだけなのです。だからキリストをもっていないパリサイ人は、いくら良い話をしていても悪い木なのです。わかりますか。聖書が言っていることを。

それでこういう風に今週 1 週間、神のみことばまとめて祈っていきましょう。私はなぜイエス様を信じているのか。何かうまくいきたいからでしょうか。病気が治り、健康になるためでしょうか。子どもたちが家族が平和になるためでしょうか。それならばうまくいかないとイエス様を信じないつもりでしょうか。病気が治らないとイエス様を信じないつもりでしょうか。貧乏のままだったらイエス様を信じないつもりでしょうか。家庭内に平和がなくてトラブルばかりだったらイエス様を信じることを諦めるつもりでしょうか。皆さん、なぜ私はイエス様を信じているのか吟味してみましょう。吟味することが急いで進んでいくことより早いです。そこを通らないといけません。

そして、その質問と同時に、私はイエス様を信じないといけない絶対理由を本当に知っているのか、自分自身に問いかけてみましょう。何かがあって信じない可能性もあるのでしょうか。あるいは他にいろいろな良いものがある、その中で私はイエス様を選んだのでしょうか。ある日本人が涙を流してイエス・キリストを受け入れました。お礼の手紙の中で「今まで〇〇神、〇〇神を信じた中で、今回はイエス神を

信じることができてありがとうございます」。そういうことなのでしょうか。信じないで自分で頑張ればと思っていられませんか。なぜ信じないといけないのでしょうか。その絶対的な理由を考えてみてください。そこをクリアしないと、次にいくらハレルヤと祈っていても無駄なのです。それは祈りではありません。祈りはこれを通った人が「神様。ありがとうございます。神様は何を願われるのでしょうか」に行くことです。自分のどうのこうのではなくて。それで自分が問題だと思っている自分の問題、それを問題にしないで、それをもって根本問題へ持って行きましょう。いまでも遅くありません。持って行って Only キリストをそこで心から告白するようにしましょう。誰かが良い、悪い、正しい、正しくない、それは全く意味がありません。Only キリスト。。何かがあればまた不安になるのでしょうか。まだ Only でないからなのです。不安なことがあるからではありません。皆さんの過去の呪いのさまざまな背景など気にしなくても、キリストの御名によってすべて完了したと宣言してください。自分のいかなる問題でもその問題にとどまらないで、根本問題のにそれを持って行きましょう。その時に他人の問題を見るたびに、その問題ではなくて、その裏にある根本問題、本当の問題、真の問題が見られるように祈っていきましょう。人の問題を見て、問題だけを見るとつまづくかさばるか笑うか同情するかに終わるのです。神様はその人の問題を通して、それを見せることで、その人に絶対キリストが必要な裏の根本の問題を見るように、私たちに先に見せてくださったのではないのでしょうか。それがクリスチャンなのです。聖書の知識はそんなになくても、それがクリスチャンなのです。それが全部なのです。それを抜きにしてクリスチャンはこうであるべきだ、ああであるべきだは意味がありません。まるで盲人が盲人であることを気づかないまま勘違いのままいろいろなことを言うのと同じことなのです。神の願いは、人が生かされ救われることです。それで私の中にあるいのちのキリストを分け与える伝道者として構えて歩いていきたいと思っています。皆さんはそういう意味でひとりひとりがとっても大切な存在です。分かっているならば、これを契約として握れば、これが神のみことばだと信じて受け入れれば、皆さんが行く所々にキリストの光が現れて、暗闇が砕かれて、いのちが生かされるいのちの運動が必ず起きることになります。皆さんの水準と能力とレベルとまったく関係ありません。それが聖書的なやり方です。弱い者を用いて強い者を辱めるのが神様のやり方です。言い訳など一切必要ありません。ぜひ人を生かす最高の主人公として歩いていきたいと思っています。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。キリストの血潮によって救われて、神のみことばによって何が問題なのかに気づき、さらに Only キリスト、絶対キリストになり、自分の目の梁に気づいて、これから他人の目にあるちりを通して梁を見てキリストを伝えて人を生かす伝道者として用いられるようにひとりひとりを整えて祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。